



共に創る掛川
富田まゆみ

配慮が必要な児童生徒への支援拡充を

Q 発達障がいなど、特別な配慮が必要な児童生徒が7年前から倍増し、9月時点で1207名となっている。児童生徒を支援する学校サポーターの増員が急務と考えるが、いかがか。



学習支援を行う学校サポーター

学校サポーターを増員配置できるように努める

A 近年、発達障害に対する市民の認識が広まってきていることもあり、掛川市に限らず全国的に特別な支援を要する児童生徒数が増加しています。掛川市としては、今後学校サポ

ーターを増員配置できるように努めていきます。

学校図書館の充実を

Q 読書・学習・情報・教材・コミュニケーションなどの機能を併せ持つセンターとして児童生徒に同じ環境が提供できるように、図書標準の達成や司書配置を進めるべきと考えるが、いかがか。

学校司書を増員しながら学校図書館の機能充実に努める

A 学習センター、情報センターである学校図書館の充実に、学校司書の果たす役割が欠かせません。令和3年度を目処に、小・中学校15校に1名程度の配置となるよう増員に努めているところです。学校司書の配置を拡充し、今後も、学校図書館の機能充実に努めていきます。



アクティブ
マネジメント・
公明クラブ
藤澤恭子

発達障がい児(者)の支援のための早急な環境整備を

Q 発達障害者支援法に基づいた発達障がいの早期発見と、適切な対応ができる環境整備が早急に必要であるが、市長の見解を伺う。

東遠学園組合構成市町で検討をすすめる

A 現在、掛川市では、赤ちゃん訪問から乳幼児健診等により早期発見に努めています。専門の関係機関と連携し早期から適切な支援に繋がる体制は整っています。この中で診療が必要なケースについては、医療機関の受診を勧めています。また、療育ができる場としては、東遠学園組合が運営する「こども発達センターめばえ・みなみめばえ」などがありますが、定員いっぱいのため、現在組合構成市町で施設の拡充を検討

しています。その中で発達障がい児も受け入れができるよう、併せて協議していきます。



ご不幸に寄り添う手続きのワンストップ化の検討を

Q お悔やみ相談窓口の設置や相談員の配置を検討できないか伺う。

設置に向け検討をしている

A 相談窓口の設置に向け、関係する各課手続きの洗い出しやサポート内容、専任職員の配置等、ご遺族と掛川市にとってどのような体制が望ましいか検討をすすめています。

【その他の質問事項】

・掛川市のスポーツ、文化活動における大会出場報奨金について